

令和7年度第2回古賀市地域活動サポートセンター運営委員会

会議録

1. 日 時 令和8年2月24日(火) 14時00分～15時00分
2. 場 所 古賀市地域活動サポートセンター ゆい
3. 出席者
(委 員) 三木会長、蓮尾副会長、石原委員、板谷委員、宮沖委員、中野委員、井上委員、
荒木委員、太田委員、菊池委員、 計10名
(事務局) 健康介護課課長：松尾
福 祉 課 課 長：吉武
福祉相談係係長：吉田
健康づくり係：4名
福 祉 相 談 係：1名 計8名

古賀市地域活動サポートセンター条例施行規則第16条第2項の規定により委員定数10名のうち過半数の出席があり、会議は成立。

4. 議 題
 - (1) 介護予防事業について
 - (2) 生活支援体制整備について

5. 資料
 - 【資料1】 介護予防事業について
 - 【資料2】 生活支援体制整備について
 - 【その他資料】
「地域支えあいネットワーク通信 vol.20」

6. 会議内容
 - (1) 市あいさつ(健康介護課長)
本会参加の御礼等
 - (2) 介護予防事業について …資料1

事務局より、資料に沿って介護予防事業について説明。

【質 疑】

(委 員) 資料①の 11 ページについて、シールの配布に偏りがあり同一人物による複数口の応募が確認されると記載されているが、舞の里 1 区では定期的に活発に活動をしているが、こちらの文章を見る限り我々の活動は本来の目的ではないように読み取れる。改めて検証していくと記載されていると、現在我々が行っている活動は本来の目的から逸脱していると捉えてしまう。

(事務局) ご指摘いただいたとおり誤解を招くような記載となっているが、仰るように皆さま各地域で様々な活動を行っていただいている中で、同一人物の方にたくさん応募いただけることで本事業を盛り上げていただいている。本市が伝えたかったこととしては、皆さまの社会参加に繋がる一方で地域によるイベント登録数の偏りを解消することで、まだ拾えていない閉じこもりの方に対して本事業を通じて巻き込んでいけるのではないかとすることを伝えたいという意図があった。舞の里 1 区でも様々な活動を実施いただき本事業にたくさんの方に応募いただいているため、社会参加や閉じこもり予防にも繋がっていると理解している。今後とも本事業にご協力いただきたい。

(3) 生活支援体制整備について…資料 2

事務局より、資料に沿って生活支援体制整備について説明。

【質 疑】

(委 員) 資料②の 11 ページについて、おでかけタクシーについて条件はあるか。

(事務局) 経営戦略課が窓口となり、条件としてまずは地域で要綱を作成いただく。

(委 員) 要綱の中に利用者が何人等記載はあるのか。

(事務局) 申請書に記載がある。

(委 員) 資料②の 10 ページについて、令和 7 年度は認知症と孤立、孤独をテーマにし令和 8 年度は引き続き身近なものに決めることなのか、それとも認知症と孤立、孤独は身近なものなので令和 8 年度も引き続き認知症と孤立、孤独をテーマにするかどちらなのか。

(事務局) これから共生社会を作っていく中で究極の課題が認知症の一人暮らしである。まずは第一層、第二層の生活支援コーディネーターと実際に現場を知っている包括支援センターにも意見を聞いてテーマを絞っていきたい。

(委 員) 提案としては、例えば資料②の 3 ページの内容で古賀東小校区では

孤立、孤独をテーマにしたのであれば、令和8年度は認知症をテーマにし
二年間でこのテーマについて話し合えば全体像が掴めるのではないかと。

(事務局) 検討したい。

(4) その他全体質疑応答

(委員) 介護予防サポーターになるには区長等に働きかけてもらう必要があるのか。

(事務局) 介護予防サポーターは個人の意思での登録となる。

(委員) 区長会や福社会等で介護予防サポーターの登録について声掛けをしてもらうのはいいのか。

(事務局) お声掛けいただきより多くの方に介護予防サポーター登録をしていただきたい。
また、活動の少ない地域で展開していただきたい。

養成講座の呼びかけを4月の広報で呼びかけているため、個人的に登録される方や、地域で既に活動されている方が「一緒にサポーター活動をしよう」等地域間のお声掛けで養成講座にお申込みされる方も多い。古賀市の出前講座の受講をきっかけに自分も趣味を活かして個人的にお申込みに来られる方もいる。地域活動や広報を通して登録される方が多い印象である。

(委員) 資料②の10ページの校区别地域支えあいネットワーク全体会議の課題として担い手不足、マンネリ化、参加者固定・減少について毎年同じ課題となっていて進んでいないのが現状である。他の自治会は分からないが、決まったことだけを実施し、会に出席している方は決まったことが済めば終わりという認識になっている。福社会はどちらかといえばボランティアで地域に貢献したいと思う意志が強く、毎月新しいアイデアが出る。もっと上手くシンクロしたら皆さんが興味をもつように繋がるのではないかと考えている。
地域を盛り上げていき、近辺住民の安否を気に掛ける等そういうネットワークづくりが必要であり、そこにゆいが絡んだらこんなことができるのではないかとアイデアがあれば提案してほしい。

(事務局) 次年度は指向を変えて、ゆいの介護予防サポーターや、健康づくり推進員、食生活改善推進員にネットワーク全体会議に参加いただきそれぞれのサポーターと福祉の関連のサポーターと繋いでいくことをめざしている。会議のテーマにしても包括支援センターであったり、介護事業所の方たちも集まって色々な議論ができるような場にしてみてもっと自分事として考えて「地域に参加しよう」、「支え合っていこう」という考えになることでマンネリ化を打破していきたい。

(委員) 自分の地域で組長会に参加すると、リーダーの熱意が感じられない。

例えば高齢者外出促進の事業についても、自分が代わりに説明したいと思うほど説明が不足しているため区長会等で教えていただければと思う。それぞれの区長の熱意によるものだとは思いますが、せっかくいい取り組みをしているのにそれぞれの地域で中途半端な説明になっているため、区長会等で分かりやすく説明をしてほしい。

(事務局) 行政が責任をもって繰り返し伝えていきたい。

(委員) 施設の立場としてこの場を借りてお礼を言いたい。介護施設として、デイサービスを実施しているが、介護スタッフは日々多忙の中レクリエーションを実施し充実できない日もあり、ボランティアの方に補ってもらっている。実際に音楽と介護は結び付きやすい。また、入浴介助でボランティアに来ていただいているが、大変な活動である中ボランティアで来ていることがすごく楽しく気兼ねなく来れると言われ大変有難くぜひ続けていただきたい。資料②の10 ページに記載されているマンネリ化については、施設としてはボランティアの方が固定されることで関係性が構築され、中にはファンができる程である。よって、資料に記載されているマンネリ化や参加者固定は、施設関係者からいうとメリットになるということを伝えたい。

(事務局) 介護予防サポーターの活動の励みになる言葉だと思うので伝えたい。

(5) その他

- ・現在の委員は次年度の6月末まで任期期間となる。
- ・次回開催は7月頃開催予定。